

第22期中間事業報告書

アイフル  
株主  
通信

平成10年4月1日から平成10年9月30日まで

# アイフル 株主通信

Vol. 3 / December 1998

第22期中間事業報告書

ごあいさつ ~

特集 / アイフル・ナウ ~  
コンピュータ2000年問題と  
アイフルの対応

成長するアイフル、4つのキーポイント ~  
市場動向 / 業界内ポジショニング  
経営戦略 / 事業戦略

中間決算のご報告 ~

アイフル 見どころ聞きどころ ~

プレスリリース

アンケート結果

会社概要 / 株式情報 ~

拡大とリストラを経営テーマに、  
さらなる業績向上に努めます。





代表取締役社長

福 田 名 孝

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。当社の第22期上半期の事業をご報告するにあたり、ごあいさつ申し上げます。

さて我が国経済は、景気回復の兆しが見えないまま超低金利政策が長期化し、設備投資の失速、株安・金融不安などによる資産価格の下落、いわゆる「資産デフレ」の様相を呈しています。

このような状況下で、当社は引き続き「拡大とリストラ」を経営テーマに掲げ、経営基盤の強化に努めてきました。

その結果、当上半期の営業貸付金残高は7,627億円、営業収益は992億円、経常利益は278億円、中間利益は127億円となりました。資金調達分野につきましては、平成10年4月に海外市場で400万株の新株発行で330億円の資金を調達するとともに、7月にはユーロ円建普通社債の発行(95億円)や国内普通社債500億円の発行登録(うち60億円を9月に発行)を実施するなど、機動的な資金調達をおこなっています。

一方、景気の低迷に伴い上昇傾向にある不良債権につきましては、当社では与信基準を厳格化すると同時に、安全性の観点から貸倒引当金の積み増しを行いました。このように資産の自己査定を厳しく実施しながらも、十分な利益を計上できましたことは、みなさまのご理解、ご協力の賜ものと感謝いたしております。

今後とも、社会的な責任の重さをいっそう自覚するとともに、さらなる業績向上に努めてまいり所存でございます。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# コンピュータ2000年問題と アイフルの対応

## 一瞬にして壊滅的影響が... 400日をきった人類最大の危機

2000年1月1日。万一の場合をシミュレーションしてみると...。その朝、エネルギーが使えないために家族でお正月を祝うことができない。電気が使えないからテレビも映らない。窓から外を見れば信号機が作動せず大渋滞。電車も止まっているらしい...

すべてがコンピュータによって動いている、といってもオーバーでない現代社会。2000年1月1日の話は決してSF小説の話ではありません。

最近、「コンピュータ2000年問題」という言葉をマスコミなどを通してよく耳にします。西暦2000年になった途端、コンピュータのシステムに誤作動が発生するという問題です。これは、コンピュータの処理能力が低かった時代に、データの容量を節約するため西暦の上2ケタを省略して、下2ケタの数字で管理してきたことが原因です。

これまでなら、「98」と入力すればコンピュータは自動的に「1998年」と認識していました。同様に「99」なら「1999年」ということになります。

ところが西暦2000年になったとき、従来のように下2ケタ

の「00」で入力してしまうと、「2000年」を「1900年」と誤認してデータが処理される恐れが出てきます。

## 世界の ファンドマネージャーも重視

コンピュータシステムは、国や地方の行政、経済産業活動、運輸、通信のインフラなどあらゆる分野に使われており、それが立ち往生すると、たとえば金利の期日管理が乱れたり、交通管制システムに支障が生じるなど、社会的・経済的に大混乱を引き起こしかねません。

このように「コンピュータ2000年問題」への対応を誤れば、企業の存続が危ぶまれていることから、世界中のファンドマネージャーもこれを重視し、事の成り行きを投資の判断材料にしているほどです。

「2000年問題」は海外では、よく「Y2K」と呼ばれています。「イヤー(Y)2000」の下3ケタをKと略して、「Y2K」の3文字で表現しています。10月15～16日にはロンドンで「Y2K」の世界会議が開かれたように、その対策は日本だけでなく全世界で最大の課題になっています。

西暦2000年まで400日をきったいま、コンピュータ2000年問題対策はいよいよラストスパートに入ったといえます。



オペレーションルーム



AIセンター全景(コンピュータ情報処理専用ビル)



## あらゆる対応策にGOサイン アイフルはコンピュータでも 絶対的な優位性

こうした中でアイフルは、業界に先駆けて経営資源の多くをコンピュータ戦略に投下し、早くからそのグレードを高めてきました。

1979年に開始したアイフルのコンピュータ戦略の歴史は、そのまま消費者金融業界の歴史であるといわれるほどです。そして1997年8月に稼働した「第4次オンラインシステム」によって、2000年問題における全てを完了させるなど、アイフルはコンピュータ戦略でも絶対的な優位性を誇っています。



## 早期実施のもとに テストを繰り返して 2000年へ万全の体制

アイフルの「2000年問題」への対応は、現在のようにマスク等などで取り上げられることも少なかった時期から動き出しています。1995年5月の役員会議で議案にのぼったことが契機となって、経営層の間で近い将来対応しなければならない課題として共通認識が得られたのが、その始まりといえます。

そのわずか1ヵ月後の1995年6月には「第4次オンラインシステム」構築におけるプロジェクトのひとつとして、包括的対応策が立てられました。

その後、2年2ヵ月の開発期間の中で「2000年問題」に対応するためのテストを経て、1997年8月にアイフルの次世代情報システムとして「第4次オンラインシステム」が稼働しています。過日、政府は「2000年問題」への対応策をとりまとめた「行動計画」の最終案を提示しました。その中で、民間部門における対応として2000年の日付を実際に入力して、正しくコンピュータが作動するかどうかを確認する模擬テストを1999年6月までに完了することが明記されています。

この点でもアイフルは、早期実施に向けて取り組んできました。「第4次オンラインシステム」の開発期間内に2000年テストを実施しましたが、再度、1999年1月にホストコンピュータおよび端末ともにコンピュータ内の日付を2000年に変更し、テストを実施。万全の体制で2000年に臨みます。



## 最新鋭次世代情報システム 「第4次オンラインシステム」を構築

コンピュータによる科学的経営を推進するアイフルでは、将来のさらなる事業の拡大を視野に入れ、「2000年」の諸問題の解決をはじめ、情報基盤の整備・顧客利便性の向上・業務の効率化などを目的に1995年4月、新情報システム構築に向けたプロジェクトを発足させました。

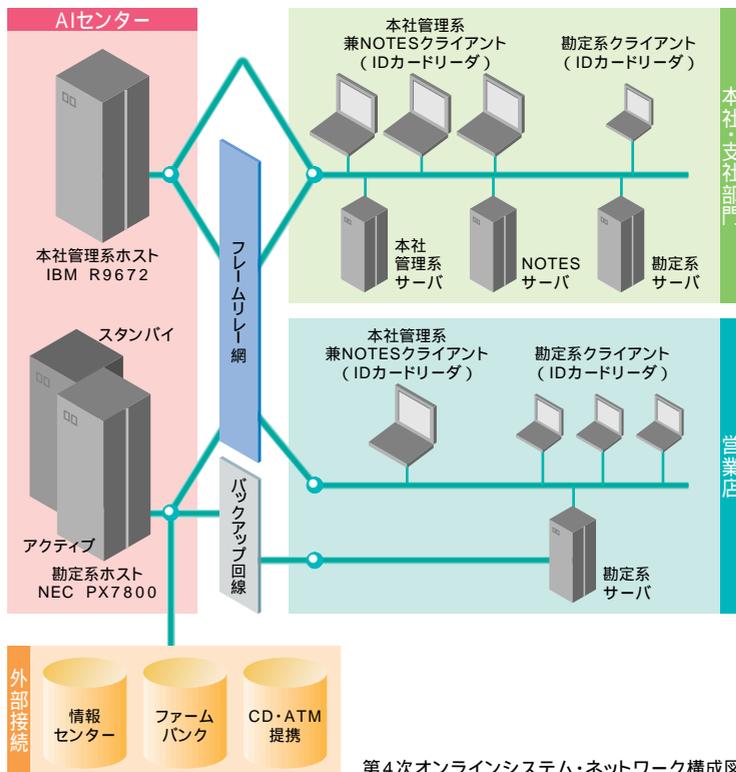
以来、2年4か月の開発期間を経て、1997年8月18日「第4次オンラインシステム」を稼働。ここに、最新鋭の次世代情報システムが完成したのです。



## 抜本的な取り組みで 本・支社・営業店すべてを新システムに

「第4次オンラインシステム」構築にあたっては、抜本的なシステム再編として取り組みました。

既存のシステムを改良するだけでは、つぎはぎだらけの複雑で肥大化したシステムになってしまうと考え、本・支店すべてのハードも入れ替え、メインフレーム4台、サーバ529台、クライアントパソコン3,400台を導入しました。



第4次オンラインシステム・ネットワーク構成図



ホストコンピュータ



ロータスノート



## 顧客サービスの向上と業務の効率化を一段と推進

「第4次オンラインシステム」の稼働によって顧客サービス、業務の効率化が大幅にアップしました。たとえば、次のようなメリットを發揮しています。

### ①クライアント・サーバ方式を採用

情報を分散して処理できる「クライアント・サーバ方式」を採用。ホストの負荷を軽減させるとともに、レスポンスの向上を図りました。

### ②ATM(自動現金入金金機)の24時間稼働が可能

顧客の利便性が、より向上します。

### ③融資決済におけるワークフローの採用

融資受付から決済までの貸付を始めとした、業務全般をワークフロー化。それによって、業務がスピードアップするとともに遠隔地での決裁も可能となりました。

### ④ペーパーレスを実現

顧客台帳など帳票類を電子化し、ペーパーレスを実現。紙資源の節約を図り、また電話・来店時の対応がスピードアップしました。

### ⑤DM発送の自動化

メールセンターの設置(京都市中京区)で、各営業店と管理センターから行っていた顧客DMの発送を集中化し、業務の効率化を図りました。

### ⑥情報セキュリティ管理の徹底

全社員にIDカードを支給し、パスワードの入力によって開示可能な情報範囲を設定。いつ・だれに・どのような情報を開示したのかという履歴も記録される仕組みになりました。



## 科学的経営とスピーディな意思決定 スコアリング・システム & ロータスノーツ

アイフルが今日に至る成長を遂げてきた要因として、コンピュー

タを最大限に活用した科学的経営を推進してきたことを挙げることができます。

### 【スコアリング・システム】

融資を実施する際の与信については、アイフル独自のスコアリング・システムを採用しています。

これは、過去に取引のあった300万件の顧客データを基に、統計解析手法を用いて事故になる確率を予測するシステムで、初回だけでなく、途上与信にも使用しています。これによって、高い成長率を遂げながら低い貸倒率を維持できたと いえます。

### 【ロータスノーツ】

また、ロータスノーツ(電子決済ソフト)を導入し、電子決済による「情報の即時共有」と「ペーパーレス化」を実現しました。これによって提案から承認までのスピードが大幅に短縮。決定された経営戦略・政策を全店舗へ迅速に伝達しています。



## 金融ビッグバンを迎えて システムに裏打ちされた アイフルの強み

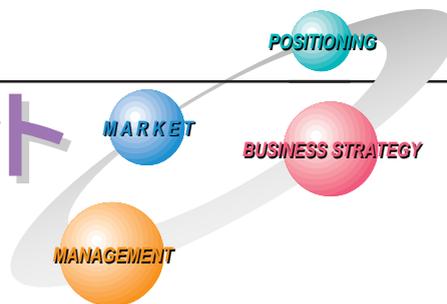
本格的な金融ビッグバンを迎えて、金融界を取り巻く情勢は厳しさを増し、優勝劣敗・淘汰の時代に突入します。

このサバイバル時代を生き抜くには、経営戦略の巧拙はもちろんですが、その戦略を支える戦術・手段としてコンピュータの占める役割は大きいといえます。

アイフルは、毎年50万件を超える新規データと、日々30万件におよぶ取引データを大切に蓄積しています。そして、それを資源にスコアリング・システムの高度化、新商品の開発などの事業展開に活用しています。

「2000年問題」をクリアした「第4次オンラインシステム」が、アイフルの経営基盤をより確かなものにします。

# 4 成長するアイフル つのキーポイント



## ① 市場動向

MARKET

### 拡大とリストラをテーマに、 体質の強化を図るアイフル

金融界全体が厳しい時代を迎えている中で、アイフルの主マーケットである「消費者金融市場」は、各社のより一層の与信管理の強化とマーケットの広がりによって、健全性を維持しつつ着実に成長を続けております。

今後とも成長の方向に変化がないものの、業界内ではすでに淘汰の時代が始まっており、寡占化の進行や競争の度合いが増してくるものと思われまます。

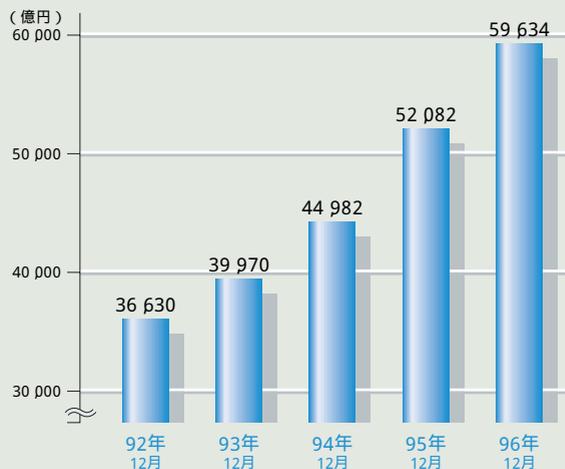
一方、金融ビッグバンによる規制緩和は、消費者金融業界の資金調達において、社債・CPといった直接マーケットからの調達の道を開き、さらなる企業力の向上につながります。

このように目まぐるしく変化していく環境の中でアイフルは、今後とも高い成長力が維持できるよう、そして企業間の競争に勝ち残れるよう、あらゆる状況を想定し対応し取り組んでいます。

マーケットは生き物です。その成長に安住して漫然と経営するのではなく、「拡大とリストラ」を経営テーマに掲げ、体質の強化に努めています。

#### 消費者金融市場の成長実績

(消費者金融專業会社の信用供与残高)



出所/(社)日本クレジット産業協会「日本の消費者信用統計」1998年度版

## ② 業界内ポジショニング

POSITIONING

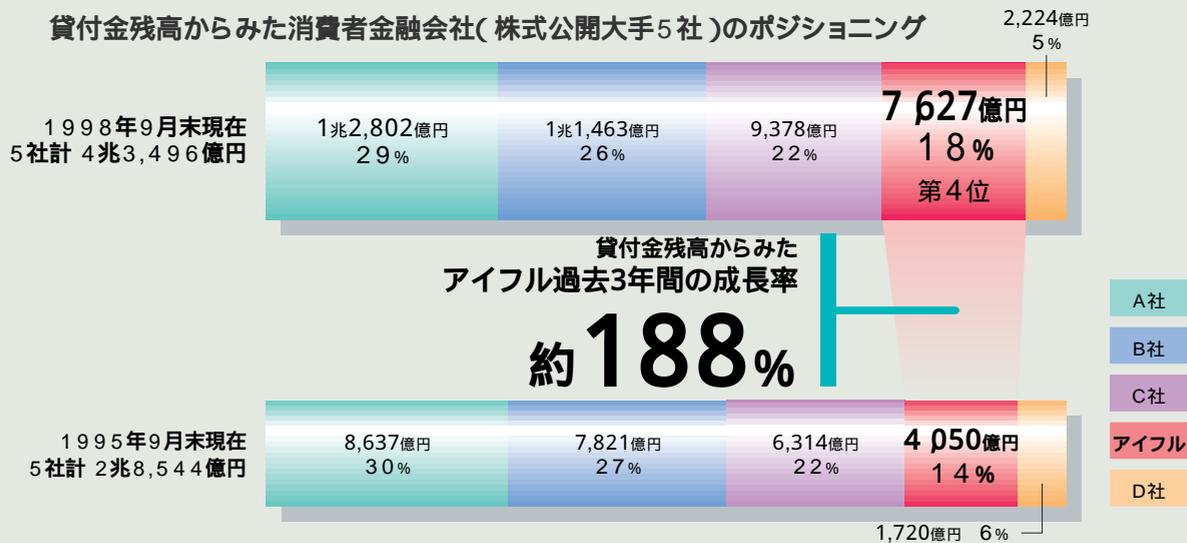
成長するアイフル  
4つのキーポイント

# めざましい成長力、 更なる可能性に挑むアイフル

消費者金融業界では、商品開発力、設備投資、資金調達といった面で大手とそれ以外の格差が拡大しています。当社はその中で、自動契約受付機「お自動さん」の積極的な設置とテレビコマーシャルによる知名度の向上、多様な資金調達の実現などによって、量的拡大とともに質的向上を図り、業界のポジションを磐石なものとし、さらにシェアを拡大しております。



### 貸付金残高からみた消費者金融会社(株式公開大手5社)のポジショニング



金額は億円未満切り捨て。%は小数点第1位で四捨五入。

比率は株式公開大手5社の合計を100とした場合のシェア。

## ③ 経営戦略

MANAGEMENT

# 堅実かつ積極経営で、 信頼をより高めるアイフル

特集「コンピュータ2000年問題とアイフルの対応」でもご紹介のように、当社の先進性には定評があります。たとえば、与信に対する科学的手法や独創的な営業展開、さらに大切な経営資源である人材の有効活用、顧客ニーズに合わせた商品開発など、堅実かつ積極経営でお客様の信頼を高めています。

### ● 科学的経営と独創的な営業展開

融資実行時には、コンピュータによるスコアリングシステムを採用しています。これによって、高成長を遂げつつ低い貸倒率を維持しております。

また、全社にロータスノーツ（電子決済ソフト）を導入し、電子決済による「情報の即時共有」と「ペーパーレス化」を実現させ、意思決定のスピード化を図りました。

一方、85年からの不動産担保ローンや97年からの商工ローン、また、インターネットホームページの開設、パソコン通信・インターネットを通じた融資受付など、消費者金融業界で初の試みに挑戦するとともに、さまざまな分野で独創性を発揮しています。



### ● 顧客ニーズへの対応と 人材の有効活用

お勤めの方から自営の方まで、そして小口（少額）・大口（高額）を問わず、あるいは無担保・有担保と、お客様のニーズに応じて商品構成の多様化を図っています。

人材の有効活用についても特色を発揮しています。マンツーマンのOJT教育活動を中心に、能力を最大限に高める独自の教育プログラムを導入しています。さらに、能力次第で若手社員の抜てき人事やビジネス経験の豊富な中高年の方々に嘱託社員として採用するなど、積極的に人材活用を図っています。

## 4 事業戦略

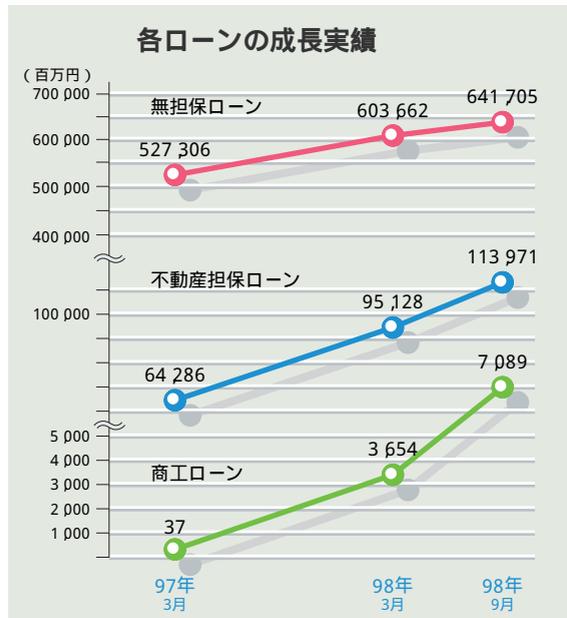
BUSINESS STRATEGY

成長するアイフル  
4つのキープポイント

# 多彩な商品構成をもとに、 総合金融化をめざすアイフル

当社はすべての顧客のニーズに応える、という経営理念のもとに「総合金融化」を推進しています。そのひとつが本格的な展開を始めた不動産担保ローンと商工ローンへの進出です。

銀行の貸し渋りという経済環境にあって、不動産担保ローンは1.2倍、商工ローンは1.9倍と着実な伸びを示しています。



### ● 無担保ローン

当事業の核として、創業以来のお客様第一主義を大原則に全国で173万人以上の方が厚い信頼を得ています。

今後とも、営業拠点の拡充やコンピュータを駆使した高度なシステム構築などによって、より身近に、より便利に、サービス提供を行ってまいります。



### ● 不動産担保ローン

85年から販売を開始。審査部から店舗窓口にいるまで不動産担保ローンの販売体制を確立しています。

その豊富な実績とノウハウを生かして、今後とも当社三本柱のひとつとして期待されています。

### ● 商工ローン

無担保ローン、不動産担保ローンに次ぐ第3の基幹商品です。自営業者の方々を対象に短期の小口事業資金を証書貸付(保証人付)で融資し、手続きの迅速さや手形不要などで、既存業者との差異化を図っているのが特色です。

無担保ローン業務で蓄積されたリスク回避のノウハウに加え、全国的な店舗網を生かし、約5兆円と推定される商工ローン市場でも強みを発揮しています。

# 中間決算のご報告

## 営業の概況

金融部門におきましては、営業拠点整備の一環として、既存店舗での商品販売の多様化を目的に、無人店舗35店を有人店に転換いたしました。また、有人店舗20店および無人店舗69店を新たに開設したほか、有人店舗1店を無人店に転換し、自動契約受付機90台を設置いたしました。

これによって当上半期末の店舗数は、有人店舗505店、無人店舗387店、担保ローン専門店4店の合計896店となり、自動契約受付機の設置台数は890台となりました。さらにATM設置台数は1,004台となり、CD・ATMの提携台数は、当上半期において新たに8行・1社との提携が実現し、11,053台となりました。

その結果、当上半期の営業貸付金残高は7,627億円、営業収益は992億円、経常利益は278億円、中間利益は127億円となりました。

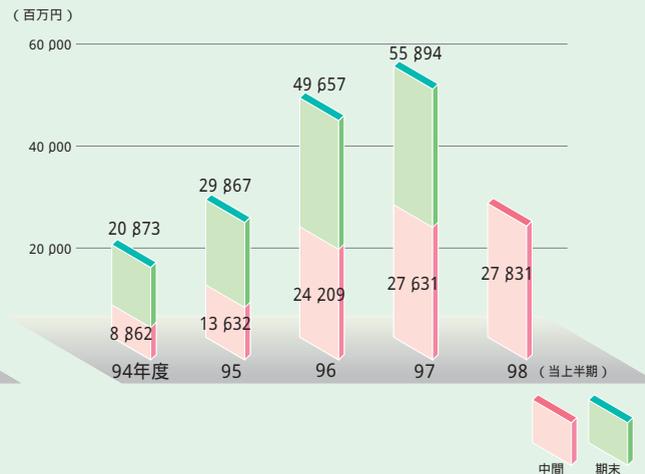
一方、回復の兆しが見えない経済環境下において、自己破産件数は増加傾向にあります。このような状況のなかで当社では、スコアリングシステム(与信システム)の精度向上を目指すとともに、商品の多様化、店舗ネットワークの充実などによるサービス向上に引き続き努めています。併せて貸倒引当金への繰入額を増加させ、高水準の安全性を確保いたしました。

[ データ ]

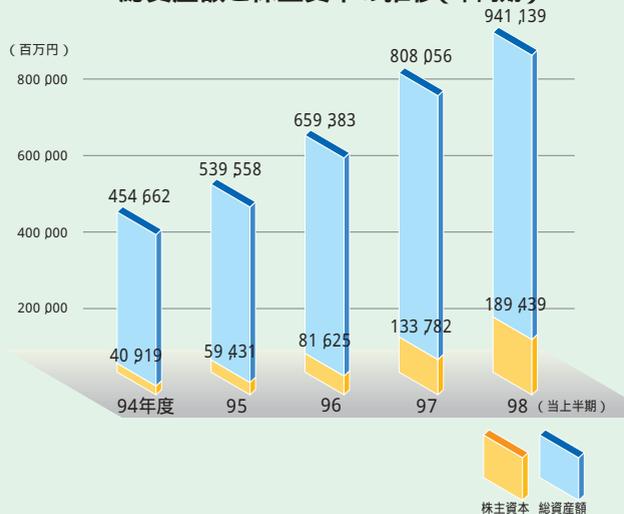
営業貸付金残高の推移



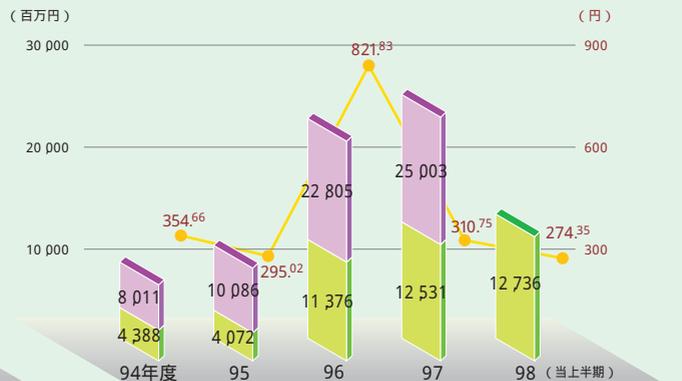
経常利益の推移



総資産額と株主資本の推移(中間期)



当期利益と1株当り中間利益の推移



(注)

- 96年8月1日付をもって、額面株式の券面額を500円から50円に変更いたしました。また、同日付をもって500円額面株式1株を50円額面株式10株に分割いたしました。
- 96年9月27日付で、第1回無担保新株引受権付社債(92年3月24日発行)の新株引受権の権利行使により1,818,000株の新株を発行いたしました。
- 97年5月20日付で、発行済株式1株を2.5株に分割いたしました。
- 97年7月30日付で、有償一般募集による増資を実施し、3,700,000株の新株を発行いたしました。
- 98年4月16日付をもって、海外公募増資を実施し、4,000,000株の新株を発行いたしました。
- 95年9月以前の1株当り中間利益は、額面金額50円に換算した金額をそれぞれ表示しております。



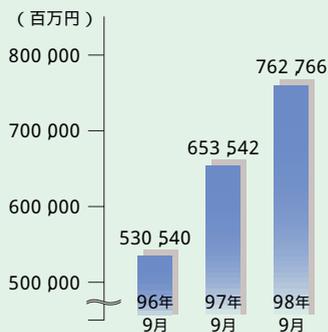
## 貸借対照表

企業規模が  
一段と  
拡大しています

## 営業貸付金

16.7%増加

当社の収益の母体である営業貸付金は、前年同期比16.7%増加という高い成長水準で推移しております。



単位 / 百万円

【資産の部】	前中間期	当中間期	前期
	(97年9月30日現在)	(98年9月30日現在)	(98年3月31日現在)
<b>流動資産</b>	<b>717,245</b>	<b>845,855</b>	<b>781,577</b>
現金預金	66,789	91,125	80,115
営業貸付金	653,542	762,766	702,445
有価証券	-	1,826	-
販売用不動産	3,886	3,470	3,544
仕掛不動産	588	372	687
貯蔵品	11	12	30
前払費用	5,070	5,322	5,625
未収収益	5,073	6,022	5,581
短期貸付金	345	218	209
信託受益権	-	-	5,000
自己株式	-	0	-
その他	438	392	452
貸倒引当金	18,500	25,675	22,115
<b>固定資産</b>	<b>90,810</b>	<b>95,157</b>	<b>95,148</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>65,438</b>	<b>66,840</b>	<b>65,577</b>
建物	15,644	15,591	15,535
構築物	1,195	1,944	1,586
機械装置	139	120	129
器具備品	6,102	5,970	5,948
土地	42,287	43,108	42,287
建設仮勘定	69	105	90
<b>無形固定資産</b>	<b>493</b>	<b>581</b>	<b>573</b>
電話加入権	488	577	569
その他	5	4	4
<b>投資等</b>	<b>24,879</b>	<b>27,735</b>	<b>28,996</b>
投資有価証券	2,314	4,460	3,476
子会社株式	71	71	71
出資金	4,073	2,588	3,911
長期貸付金	2,996	6,172	6,199
破産・更生債権等	18,887	17,688	18,218
長期前払費用	6,552	5,395	5,830
敷金及び保証金	6,865	7,766	7,476
その他	2,542	2,965	3,026
貸倒引当金	19,423	19,373	19,213
<b>繰延資産</b>	<b>-</b>	<b>126</b>	<b>-</b>
社債発行費	-	126	-
<b>資産合計</b>	<b>808,056</b>	<b>941,139</b>	<b>876,726</b>

単位 / 百万円

【負債の部】

	前中間期 (97年9月30日現在)	当中間期 (98年9月30日現在)	前期 (98年3月31日現在)
<b>流動負債</b>	<b>306,780</b>	<b>394,312</b>	<b>398,646</b>
支払手形	3,504	4,491	3,493
買掛金	33	40	32
短期借入金	37,090	57,660	68,000
一年以内返済予定長期借入金	241,358	279,038	270,189
コマーシャルペーパー	-	30,000	30,000
未払金	3,667	2,021	2,931
未払法人税等	14,848	14,459	17,160
未払事業税等	3,666	3,536	4,001
未払費用	556	795	674
賞与引当金	1,504	1,758	1,757
その他	549	510	405
<b>固定負債</b>	<b>367,493</b>	<b>357,387</b>	<b>331,825</b>
社債	-	15,500	-
長期借入金	365,996	340,405	330,314
退職給与引当金	231	189	210
役員退職慰労金引当金	819	855	850
その他	446	437	449
<b>負債合計</b>	<b>674,273</b>	<b>751,699</b>	<b>730,471</b>

【資本の部】

<b>資本金</b>	<b>23,208</b>	<b>39,752</b>	<b>23,208</b>
<b>法定準備金</b>	<b>25,604</b>	<b>42,407</b>	<b>25,604</b>
資本準備金	25,372	41,912	25,372
利益準備金	231	495	231
<b>剰余金</b>	<b>84,969</b>	<b>107,279</b>	<b>97,442</b>
別途積立金	71,622	91,622	71,622
中間(当期)未処分利益	13,347	15,657	25,820
[うち中間(当期)純利益]	[12,531]	[12,736]	[25,003]
<b>資本合計</b>	<b>133,782</b>	<b>189,439</b>	<b>146,255</b>
<b>負債・資本合計</b>	<b>808,056</b>	<b>941,139</b>	<b>876,726</b>

ROE / 株主資本利益率

当中間期 **7.6%**

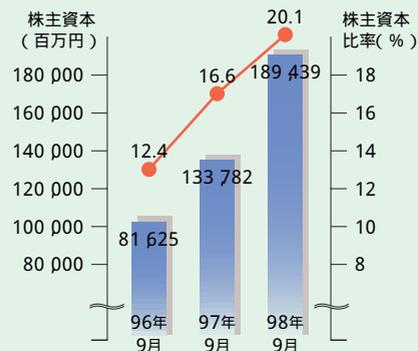


$$\text{ROE/株主資本利益率} = \frac{\text{当期(中間)利益}}{\text{株主資本(期中平均)}} \times 100(\%)$$

株主資本比率

**20.1%**

海外公募増資による資本金の増加と、好業績に支えられた利益の蓄積により株主資本が一層充実し、株主資本比率は大幅に上昇しております。



$$\text{株主資本比率} = \frac{\text{株主資本}}{\text{総資産}} \times 100(\%)$$

## Statements of Income

### 損益計算書

厳しい環境の中  
順調に業績を  
伸ばしました

#### 中間配当金

一株当たり **30円**

株主の皆様へ積極的に利益還元を行うため、当中間期より中間配当を実施致します。当期の中間配当金は1株当たり30円とさせていただきます。

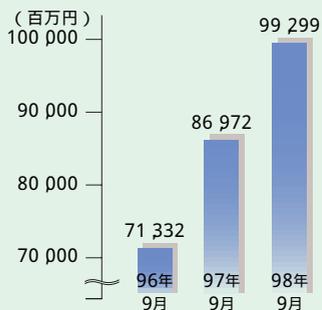
単位 / 百万円

	前中間期 ( 97年4月1日から 97年9月30日まで )	当中間期 ( 98年4月1日から 98年9月30日まで )	前期 ( 97年4月1日から 98年3月31日まで )
営業収益	86,972	99,299	179,394
営業貸付金利息	83,056	95,039	171,478
その他の金融収益	69	238	159
その他の営業収益	3,846	4,021	7,756
営業費用	57,792	68,724	121,458
金融費用	9,924	9,980	19,623
その他の金融費用	410	916	1,007
その他の営業費用	47,457	57,827	100,828
営業利益	29,179	30,575	57,936
営業外収益	287	210	786
貸付金利息	10	48	19
受取配当金	15	25	31
保険配当金	171	38	427
匿名組合出資益	44	56	66
雑収入	46	42	240
営業外費用	1,835	2,955	2,827
貸倒引当金繰入額	168	64	798
投資有価証券評価損	471	807	656
販売用不動産評価損	146	129	263
新株発行費	993	1,863	993
社債発行費償却	-	25	-
雑損失	56	65	116
経常利益	27,631	27,831	55,894
特別利益	17	160	122
貸倒引当金戻入額	17	160	122
特別損失	255	595	529
固定資産除却損	48	126	123
貸倒引当金繰入額	-	468	-
過年度事業税	-	-	159
リース契約解約損	206	-	246
税引前中間(当期)純利益	27,394	27,396	55,488
法人税・住民税	14,862	14,659	30,484
中間(当期)純利益	12,531	12,736	25,003
前期繰越利益	816	2,920	816
中間(当期)未処分利益	13,347	15,657	25,820

## 営業収益

# 14.2%増加

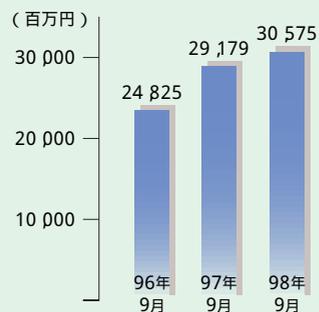
業容の拡大とともに一般の企業で売上高に相当する営業収益は、大幅な伸びを示しております。



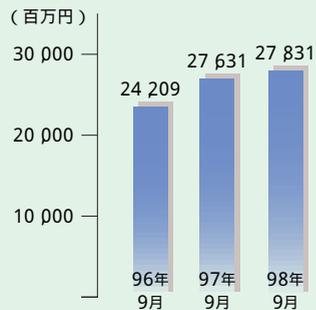
## 営業利益・経常利益

当期は、海外市場での新株発行費用の計上に加え、安全性の観点から貸倒引当金を積み増しましたが、経常利益はこれを十分に吸収して前期並みの水準を維持しております。

### 営業利益



### 経常利益





アイフルの総店舗数は現在有人・無人店舗を合わせて全国で896店あります。全国に広がるアイフルのネットワークの中からユニークな店舗と周辺の名所や名物をご紹介します。第1回目として、最北端の店がある稚内市を訪ねました。

## ここは最北端の支店。風は冷たくても人情は厚い。

### ロードサイド型店舗としては有利な立地。

人口は約4万5千人を擁する稚内市は日本最北端の宗谷岬があり、四季を通じて強風に見舞われるため「日本のてっぺん」とも「風の街」とも呼ばれています。「40号南稚内店」は稚内随一の繁華街、大国町にあります。国道40号線沿いに無人店舗として出発し、平成10年4月21日に有人店としてリニューアルオープン。付近は競合他社も数店舗出店する消費者金融の激戦地区ですが、アイフルの看板がひときわ目立っています。札幌駅前店より10月1日付で赴任したばかり、新天地で張り切る店長の菅野正に話を聞きました。

### 土地柄に合わせた商品販売を。

観光、漁業、酪農等が主な産業で客層は自営業が多いとのこと。昼間は電話での問い合わせ、来店者は仕事が終わる夕方に集中します。デパート前やアーケード街へかけてティッシュ配布も行います。「お自動さん」の人気の高いそうです。商圏は広く、チラシを配布するとお客さまの問い合わせが殺到しま



す。遠くは江差や名寄、また利尻島や礼文島からはるばる船でやってくるお客さまもいらっしゃいます。

「有人店のメリットは実際にお客さまと対話できることですね。信頼関係を築き、お客さまが何を求めているかをとらえ、地域にあった商品を販売したい。自営業が多いため、不動産担保ローンや商工ローンなど、他社には負けない・できない商品を主力にしていきたい」と菅野店長は抱負を語ります。

### イベントなど地域密着の活動も盛ん。

稚内は地元の人々のつながりが密接とのこと。それだけに「評判もすぐに伝わります。ですから、できるだけ店の内外を美しくしようと、清掃も丁寧に行うようになっています」と菅野店長。また冬は雪に閉ざされるためイベントなどがあると街が活気づきます。アイフル主催のドッジボール全道大会に旭川地区代表として稚内チームが出場し、大いに盛り上がるなど、地元での知名度もアップしてきています。

訪問した時は地元出身の女子社員三浦とまだ二人きりの店舗でしたが、まもなく期待の新人が入社予定。

北風にも負けず、厚い人情でガンバル40号南稚内店のスタッフに声援を送ってください。



若々しい店長の菅野 正  
地元出身の女子社員、三浦



## 雄大な風景と北の味覚に誘われて。

### 宗谷岬は日本の最北端。

宗谷岬の位置は北緯45度31分14秒。周辺には日本最北端の地を示す三角錐のモニュメントが立っています。また間宮林蔵の像は彼が探検した43km彼方のサハリン島を見つめているようです。



### 日本海に浮かぶ「夢の浮島」。

稚内から小樽を結ぶ日本海オロロンラインは、海岸線と利尻島の美しい利尻富士の眺めが楽しめるライブコースです。



### 雄大な自然に感動するサロベツ原野。

2万3千ヘクタール、山手線が2つ入るといふ広大なサロベツ原野は自然の宝庫。北海道ならではの雄大な眺望が満喫できます。



CLOSE UP!

菅野店長おすすめ！  
冬の味覚の王者カニも  
うまくて安い。

稚内ならタラバガニ、毛ガニ、ズワイガニどれも身がギッシリつまってこたえられない美味しさです。しかも札幌よりずっと安く買えるのがウレシイ。これからおいしい季節になりますので、ぜひ一度お越しください。



写真提供 / 北海道観光連盟



三浦のおすすめ！  
稚内の名物はタコしゃぶ。

稚内のミズダコは全国でも有数の水揚げを誇ります。急速冷凍したタコを薄くスライスしたものを湯にくぐらせてポン酢やゴマだれで。郷土料理の店や居酒屋で賞味できます。



# P R E S S R E L E A S E

## 当期のプレスリリース

1998年10月1日

### 東京・大阪・京都に株式上場

上場企業が相次いでいる消費者金融業界は、社会的認知の高まりの中で確実に市場を拡大し、業績を伸ばしています。

アイフルはその中でも高い成長率を誇り、1997年7月30日に株式を店頭公開しました。その1年2ヵ月後の10月1日、東京証券取引所第2部および大阪証券取引所第2部、ならびに京都証券取引所に上場しました。

アイフルは、「新しい総合金融企業」をめざして消費者ニーズの多様化に合わせて多彩な商品を提案していくとともに、オンラインを駆使して業務の効率化やサービスの強化に努め、さらなるランクアップを図ってまいります。

1998年7月23日～26日

### 「アイフルカップPGA ゴルフトーナメント1998」開催

アイフルでは、これまで「社会から支持を得る」との経営理念のもとに、スポーツイベントを中心とした多様なプロモーションを通じて活動を高めてきました。

その一環として7月23日～26日までの4日間、青森カントリー倶楽部において「アイフルゴルフトーナメント1998」を開催しました。これは、3月12日にスタートを切った1998年PGAツアーの18戦目で、今年度からの新規開催となるものです。

多くのゴルフファンに感動を与え、その重要なテーマのひとつである“地域と密着したトーナメントづくり”を実現することができました。



1998年7月18日

### 「国内普通社債500億円」の発行登録

金融ビッグバンに伴い、消費者金融業界においても社債等による資金使途の規制は緩和の方向に向かっています。アイフルでもそれらの動向をにらみ、資金調達の一環として、国内普通社債(SB)の発行登録を行いました。

今後もコマースナル・ペーパー、社債等の多様な調達手法を用い、機動的な財務活動を実施していく考えです。発行登録の概要は下記の通りです。

- |           |                   |
|-----------|-------------------|
| 1 有価証券の種類 | 普通社債(SB)          |
| 2 効力発生日   | 1998年7月18日        |
| 3 有効期限    | 2000年7月17日        |
| 4 登録金額    | 500億円             |
| 5 資金使途    | 諸経費の支払資金および設備投資資金 |

1998年9月4日

### 第1回「無担保普通社債」発行

財務体質のさらなる向上をめざし、多様な調達手段の一環として第1回無担保普通社債(SB)を発行しました。これは7月18日付、500億円の国内普通社債の発行登録の枠内で行ったものです。発行の概要は次の通りです。

- |         |                        |
|---------|------------------------|
| 1 社債の名称 | アイフル株式会社第1回無担保社債       |
| 2 発行総額  | 60億円                   |
| 3 利率    | 年2.6%                  |
| 4 発行価格  | 額面100円につき100円          |
| 5 払込日   | 1998年9月25日             |
| 6 償還期限  | 2001年9月25日(3年債・満期一括償還) |
| 7 資金使途  | 経費支払資金                 |

# [ アンケート ]

## アンケート結果(「アイフル株主通信Vol.2」より)

- 前回実施いたしましたアンケートの中から代表的ないくつかのご質問を紹介します。

☒ アイフルの不良資産への対応について教えてください。

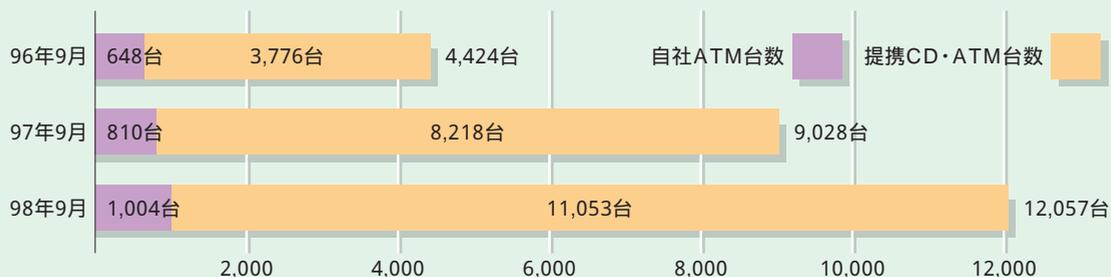
♥ 経済状況から、消費者金融業界では不良債権が上昇傾向にありました。それに対し、アイフルでは与信基準の見直しを行い、一部職種、地域への貸付ヘッジを行っております。その結果、成約率(申込件数に対する貸付件数の

比率)は97年3月期の約83%から、当上半期の77%台にまで低下しております。このような審査基準の厳格化は、将来の貸倒抑制に高い効果があるものとみております。

☒ 銀行でアイフルカードは使えるようになるのですか。

♥ すでに30行の銀行で7,150台のCD提携を実施しており、他にも10社の流通系クレジットカード会社等、当社のATMを含めると合計12,057台のCD・ATM(98年9月末)で、アイフルのカードが利用できるよう

なっています。今後も店舗出店、ATMをはじめとするネットワークの充実を図り、お客様のニーズに応じて参りたいと考えております。



# 会社概要

(平成10年9月30日現在)

## 会社概要

商号 アイフル株式会社 AIFUL CORPORATION

本店所在地 京都市右京区西院東貝川町31番地

創業 1967年(昭和42年)4月

設立 1978年(昭和53年)2月

資本金 397億52百万

従業員 3,164名

平均年齢 27.1歳

主要な事業内容 消費者金融事業、不動産担保金融事業、  
保証人担保金融事業、不動産事業、  
レストランならびにアミューズメントサービス事業

## 役員

取締役会長 渡邊敬之

代表取締役社長 福田吉孝

代表取締役専務 川北太一

専務取締役 矢野進

専務取締役 野田隆司

常務取締役 片岡祐治

常務取締役 小林貞敏

取締役 福田安孝

取締役 西村吉正

取締役 今田弘治

取締役 羽島伸太郎

取締役 河本 巍

取締役 曾我部義矩

取締役 宗竹政美

取締役 柳橋康男

常勤監査役 長井靖典

常勤監査役 虫明忠雄

監査役 大島隆夫

監査役 田中照敏

## 主な事業所

本社 〒615-0057 京都市右京区西院東貝川町31番地

東京支社 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-1-5(東京駅前ビル)

営業店 全国 912店

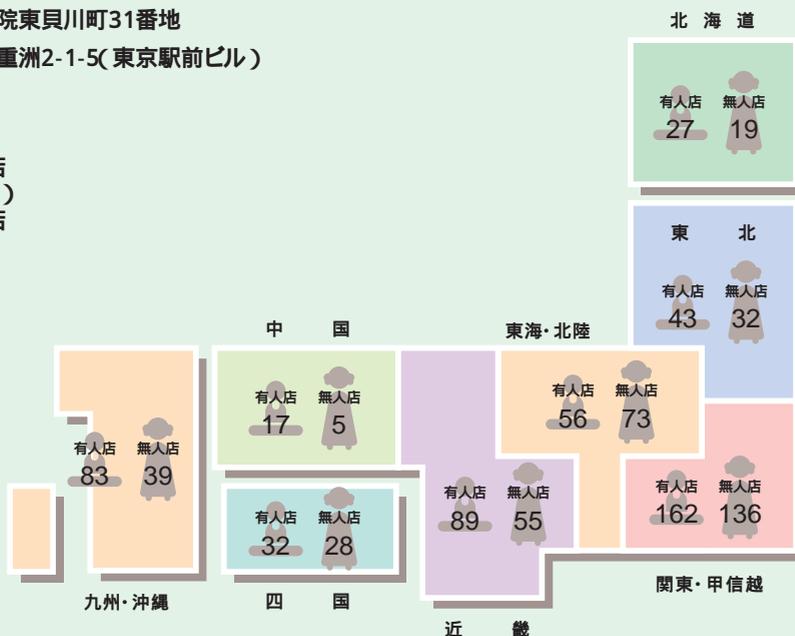
・ローン事業店舗 896店

(担保ローン専門店4店含む)

・サービス事業店舗 16店

(ローン事業店舗)

	総店舗数	有人店	お自動さん 無人店
北海道地区	46	27	19
東北地区	75	43	32
関東・甲信越地区	298	162	136
東海・北陸地区	129	56	73
近畿地区	144	89	55
中国地区	22	17	5
四国地区	60	32	28
九州・沖縄地区	122	83	39
合計	896	509	387



# 株式情報

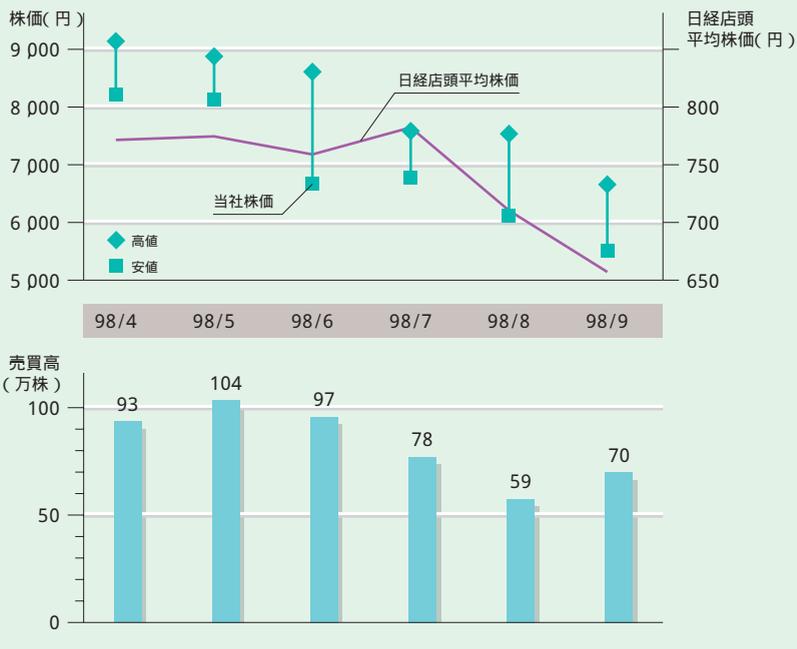
(平成10年9月30日現在)

発行する株式の総数 150 000 000株  
 発行済株式の総数 46 752 500株  
 株主数 3,449名

## 大株主

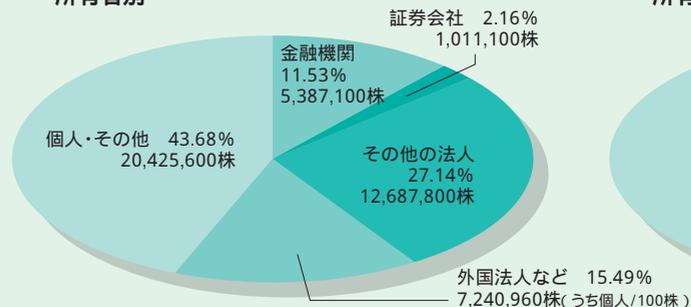
株主名	持株数/千株	持株比率/%
福田吉孝	16 294	34.85%
(株)山勝	4 945	10.58%
(株)丸高	4 545	9.72%
エリオリース(株)	2,109	4.51%
福田安孝	1 845	3.95%
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	1 312	2.81%
ポストセーフティ・ピーエスディー・ ドレーク・クライアント・オムニバ	784	1.68%
(株)日本債券信用銀行	740	1.58%
ビービーエイチ・バトナム・ グローバル・グロウス・ファンド	521	1.11%
野村證券(株)	501	1.07%

## 株価および売買高の推移

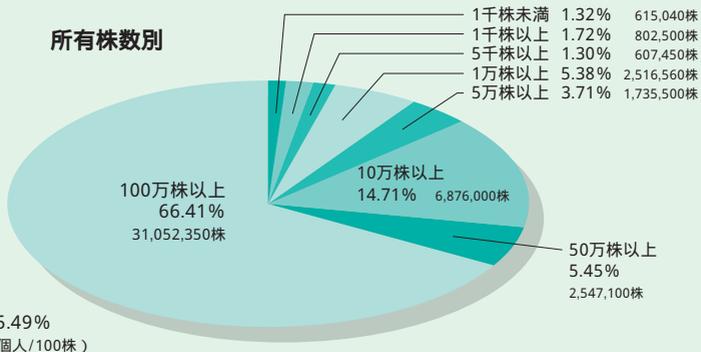


## 株式分布状況

### 所有者別



### 所有株数別



# 株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月中
株主確定基準日	定時株主総会・利益配当金 3月31日 中間配当を行う場合 9月30日 その他必要ある場合はあらかじめ公告いたします。
株式名義書換	1. 株式名義書換代理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 2. 同事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部 3. 同取次所 住友信託銀行株式会社 全国各支店
1単位の株式の数	100株
公告掲載新聞	日本経済新聞
株式取引	東京証券取引所市場第二部 大阪証券取引所市場第二部 京都証券取引所

## 届出諸事項の変更・ 買取請求についてのご案内

住所、届出印、法人株主の代表者、あるいはその役職名、氏名、商号、配当金の振込口座などのご変更は、住友信託銀行本支店でお手続きください。ただし、財団法人証券保管振替機構に株券を預託されている場合には、お取引の証券会社にお申し出ください。

## 24時間電話自動受付システム 導入のお知らせ

当社では株主様からの住所変更のお手続きを24時間にわたり受付させて頂いております。  
連絡先は以下の通りです。

名義書換代理人

住友信託銀行証券代行部 / 株主窓口チーム

東京 042 351 2211

大阪 06 833 4760

(平成11年1月1日より 06-6833-4760)



アイフル株式会社

本社 / 〒615-0057 京都市右京区西院東貝川町31番地 (075)321-1701(代)  
東京支社 / 〒104-0028 東京都中央区八重洲2丁目1番5号(東京駅前ビル) (03)3274-4561(代)

証券コード 8515